

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-155	15-032	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Nightmares: risk factors among the Finnish general adult population. フィンランド一般成人における悪夢のリスク因子		
執筆者		
Sandman N, Valli K, Kronholm E, Revonsuo A, Laatikainen T, Paunio T.		
掲載誌		
Sleep. 2015 Apr 1;38(4):507-14. doi: 10.5665/sleep.4560.		
キーワード		PMID
抑うつ、悪夢、不眠症、疲労感		25325474
要 旨		
<p>目的： フィンランドの成人一般住民において、繰り返される悪夢のリスク因子を横断研究 (National FINRISK 研究) により明らかにする。</p> <p>方法： 対象は 2007 年～2012 年の間に、性・年齢で無作為層化抽出された 25～74 歳のフィンランド一般住民 13,922 名 (男性 6,515 名、女性 7,407 名)。質問票にて悪夢の頻度、社会経済因子、睡眠時間、精神および身体健康度、生活の満足度、アルコール摂取頻度等を調査した。悪夢の頻度(よくある/ときどき/まったくない)をアウトカムとし、複数のリスク因子を同一モデルに投入した多項ロジスティック回帰分析を実施した。</p> <p>結果： 頻回の悪夢と強く関連したのは不眠 (オッズ比 6.90)、抑うつ (BDI 尺度 1 点上昇ごとオッズ比 1.32) および疲労感 (オッズ比 6.86) であった。男性に対して女性はより頻回の悪夢リスクが高値であった (オッズ比 1.63)。酩酊するほどの飲酒の頻度は有意に頻回の悪夢と関連していた。低い身体健康度、頭痛なども有意な悪夢との関連をみとめた。アルコール摂取量に関しては、悪夢との有意な、しかしきわめて弱い相関をみとめた。</p> <p>結論： 抑うつ傾向、不眠は頻回の悪夢と強く関連していた。これら精神の不健康に加え、身体の不健康も頻回の悪夢と関連がみられた。</p>		